

都市部での干潟の保全の取組

船橋市漁業協同組合活動グループ

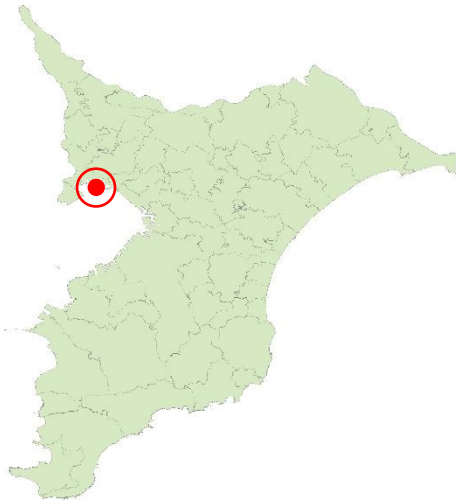
地域概要

船橋地区は、千葉県の西部にあり、東京湾の最奥部に位置する。

船橋市は、中核都市最大の人口を持つ都市である。また、商業が盛んな地域で、臨海部には“ららぽーと”や“IKEA”などの旗艦店(1号店)をはじめとする商業施設が多数立地する。

一方で、沿岸域の干潟などは、こうした経済成長期の臨海部の開発により広域に埋め立てられた。

しかし、こういった都市部であるにもかかわらず、採貝漁業、底曳網、まき網、ノリ養殖等の漁業が今も継続して営まれている。また、近隣の三番瀬干潟では毎年多くの潮干狩り客が訪れる名所となっている。



活動実績

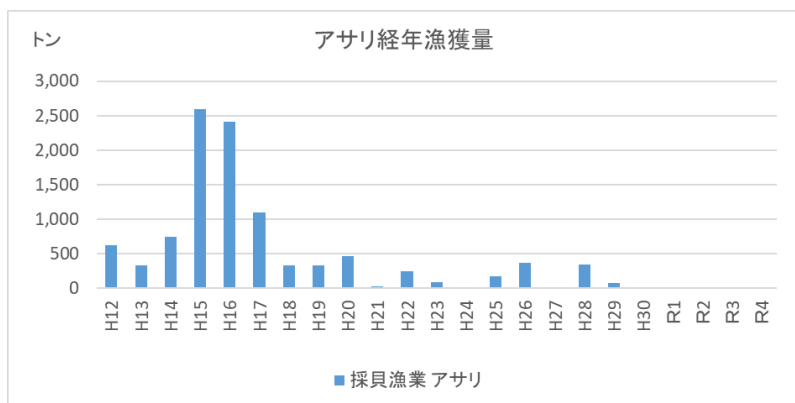
現在の取組は、客土(砕石覆砂)、耕耘、機能低下を招く生物の除去(ツメタガイ、ウミグモの駆除)、モニタリング、環境教育(ノリすき体験、底曳網漁の見学、ノリひび見学、座学的环境学習等)を行っている。



活動の背景

当地区では、近年、二枚貝類が減少しており、特にアサリが平成15年度をピークに大きく減少し、ここ数年は漁業では水揚げされていない状況にある。アサリの減少は、底質の悪化や青潮の発生、魚類や鳥類による食害など複合的な要因によるものと考えられている。

アサリ等の二枚貝類資源の回復は、当地区の漁業にとって極めて重要。また、都市住民にとっても身近な自然から恵みを頂く貴重な資源であり、その回復を図るためにも、干潟環境の再生への対策が求められている。



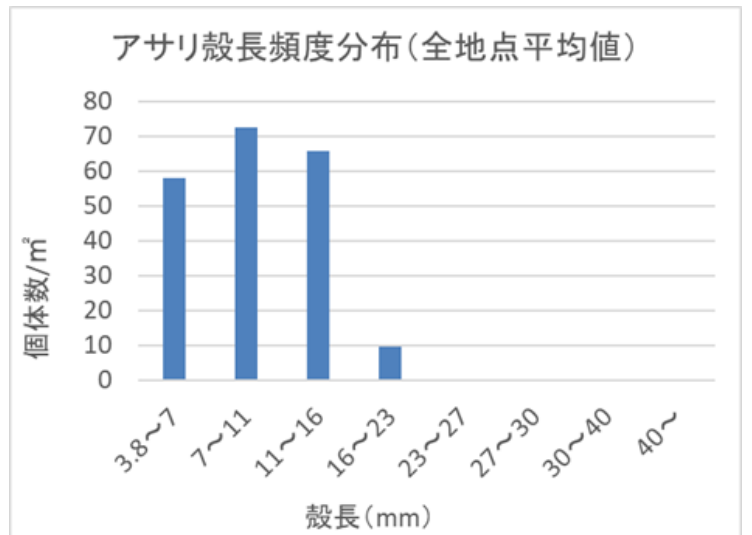
活動方針

活動の目的は、干潟の保全であるが、目標は、二枚貝類資源、特にアサリ資源が持続的に利用ができる海域環境の再生である。

当地区においてアサリ資源を回復させるためには、着底から成貝まで生育できる干潟環境を整備することが重要と考えている。そこで、客土及び耕耘による底質の改善や、アサリの成育・生残を阻害するツメタガイやウミグモの除去を行うことにした。また、こういった取組の重要性や環境保全、地域の漁業について知ってもらうため、市内の小学生に向けた体験型環境教育を実施することにした。

活動の成果と課題

当地区のアサリ資源は、以下のモニタリング調査結果(下図)に示す通り、客土(砕石)区において高密度に生育している状況が確認されている。しかし、殻長16mm以上になると個体数は大きく減少し、20mm以上の個体は殆ど確認できなくなる。この原因を調べるため、ビデオによる観察を行った結果、魚類やカニ、巻貝等の食害を受けていることが確認された。



このことから、客土はアサリの着底から一定サイズまでの成育には大きな効果があるものの、食害の影響で、親貝になるまでに大きく数を減らしたり、漁獲資源につながらないことが判った。今後は、これらを食害から守る取組が必要と考えている。

一方で、環境教育は毎年、応募が多く、次年度の予約を行う学校もあるほど、人気の取組となっている。この取組は、体験と学習を合わせることで、小学生の記憶に残り、自然環境と漁業について考える良いきっかけになっていると考えられる。

環境教育の取組は、評価も高く、継続への要望の声が多いものの、講師となる漁業者の高齢化や、ノリの手すき技術の継承に若干の課題がみられる。そのため、若い漁業者や地元の若者がこういった取組に、関心を持って参加してもらえるよう、取組への理解増進を進めていきたいと考えている。